“わ”ふれあい

1999年 1月
第４号

TEL(078)743-8100
FAX(078)743-8103

ＫＳＣ社会還元センター　　ふれあい編集委員会

生活用品に広まるバリアフリー化！
…ユニバーサルデザイン…

高齢者になると視覚・触覚・握力・歩行等、感覚的・体力的にさまざまな障害を大なり小なりもつようになる。そこでこのような障害を少しでもなくそうとするバリアフリー化がいろいろの分野で進められている。辞典によればバリアフリーとは「高齢者や障害者が社会参加するうえで障害（バリア）となるものが除かれ自由に社会参加できるようなシステムつくりの目標概念」とある。建築物におけるバリアフリー化はよく耳にする言葉であり、実際に屋内の段差、通路などに施策が見られる。

最近バリアフリー化は“食”の面でも普及しつつある。例えば、食品包装の見にくく分かりにくい開封部の表示など、視力・握力の低下による袋や紙パックの開封の困難さ。さらに視力低下はガスコンロの青い点炎状態の見えにくさは危険につながる。

炊飯器や電子調理器等の過小な押しボタン、判読しにくい液晶表示…。これらは食生活を制約し高齢者の健康な自立生活を困難にする結果を招くものといわれている。

視覚障害者食生活改善協会の調査によれば、菓子類では紙箱の開封部に切れ目とか箱上部にジッパー方式を採用、薄い素材の袋にはギザギザをつけて弱い力でも開封しやすくしたり、レトルト食品では切り込みのほか真っ直ぐに切れる素材の使用により少しの力で綺麗に切れる。飲料に多いアルミ蓋シールには大きなツマミを、缶詰には引き開け用のタブを設けたイージーオープン方式を、牛乳パックには開け口に開封用の紐をつける等々の例がある。

日本生活共同組合連合会は視覚障害者団体からの要望により、1997年にコープ商品230 点をピックアップ、市販品をくわえて300 点について多角的観点から評価。障害者だけでなく高齢者や健常者までを視野に入れ、商品のもつ不便さ（バリア）を洗い出している。それによると開封口の表示、8 ポイント以上のゴシック体文字、表字と背景色の配慮、ノッチや凹凸、ミシン目や開封シール加工による開封性の向上などがある。そして、まず「100 円菓子」の袋に▼記号で開封方向を表示した。

家電製品協会は『視覚障害者にも使える家電製品』の調査を毎年行っている。それによるとスイッチやボタンを周辺より出っ張らせ、大型にして押しやすくし、数もできるだけ少なくするなど、多機能よりも機能をしぼった簡易化を挙げている。高齢者や障害者に配慮したモノつくりには視点、発想の転換が不可欠であり、人々の能力は多様という認識に立って、ひとりの人間が子どものときから高齢になるまで体力や能力の変化に対応して、生涯を通じて使える『誰もが使いやすい』モノであることが望まれる。このような考え方がユニバーサルデザインと呼ばれており、食の分野を含めバリアフリー化の方向性の定着と普及性が大いに期待される。しかしバリアフリー化には技術や材料等の面で種々の難しさを伴うため、コスト高になるきらいがある、としている。

『国際高齢者年』にあたり高齢者の福祉健康、生活文化向上等をふまえ、社会還元志向のわれわれにとって「小さなバリアフリー化」の調査も一考に値するであろう。

（Ｆ部会　横田）

生活用品のバリアフリー化…１
外国人との交流忘年懇親会…２
［のぞみの家］で忘年会……３
第19回運営委員会……４
第20回運営委員会／
第３回地区委員会…５
80＝20の経験則……６

1998年外国人との交流忘年懇親会を開催

昨年の8月21,22の両日シルバーカレッジで、全国トンボ市民サミット神戸大会が開催されました。トンボを媒体として、環境を考える会で、この大会では国際都市神戸として外国人を招き“環境国際フォーラム”を開きました。私たち外国人支援交流部会（D部会）から25名が出席し、各国の環境問題について有意義な討議が行われました。

その後の反省会で、折角の交流会を一度だけで終わらせないで、今後も交流の輪を拡げようではないかとの声があがり、昨年末にこの外国人交流忘年懇親会を開きました。トンボサミットに出席した外国人を中心に、お友達を誘って頂き、又他の留学生にも呼びかけたところ、11ケ国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ガーナ、イラン、ベトナム、中国、ペルー、イギリス、フランス、台湾から18人と日本側はD部会の27人合計45人が一堂に集まり楽しいパーティとなりました。挨拶では、これからも交流を続けてゆくことを手短かに述べた後、先ずワインで“乾杯”！立食スタイルで5テーブル、白いテーブルクロスがライトに映えてちょっとしたレストラン風になりました。　メニューは手作りの焼きそば・鶏の唐揚げ・水餃子・別にオーダーしたサンドウイッチ・巻きずし・いなり寿司やみかんなど色とりどりの料理が並んで、少し遅いランチでしたが、和気藹々の内に食事は進められました。　1時間ばかり経った頃には、和やかな雰囲気がホール一杯に拡がりました。各国の人がお互いの名札をみながら団欒しています。やがて女性会員が日本の童謡「赤とんぼ」の歌唱を指導すると、すぐ全員が合唱を始めます。リラックスした中で台湾の方5人が母国語で歌を披露します。ついでフィリピンの女性2人がタガログ語でクリスマスソングをハーモニーよく合唱、イラン、ガーナの男性2人もこれに加わり、はては“ジングルベル”を全員で合唱、本当に気持ちよく盛り上がっていきました。

最後は“炭坑節”で全員が“わ”になりホールの中はもう盆踊りの雰囲気です。

この一年の色々なことをこの忘年懇親会にこめたひとときでしたが、これぞ『国際交流』との感じがひとしおでした。

多分外国の方達にも十分楽しんで頂けたと思います。あっと言う間のひとときでしたが、再会を約して閉会しました。

See You Again！　　（D部会　内海記）

場　所　（財）神戸学生青年センタホール

日　時　平成10年12月9日（水）

地域ふれあい部会が「のぞみの家」で忘年会のイベントを実施

地域ふれあい部会（C部会）の使命は、地域で活動する仲間たちへの側面的な支援をすることであります。イベントの請負や出演者のコーディネイト、或いはJR舞子駅での観光ボランティアなどをやってきました。このほか“わ”の設立当時から幼稚園やその他の施設で人形劇、邦楽演奏、銭太鼓の公演など、少なくとも月一回以上のペースで実施してきています。今回は玉津の「のぞみの家」の忘年会のイベントを引き受けましたので、ご報告します。

銭太鼓の演奏風景

◎「のぞみの家」とは：

身体が不自由で、ひとりでは普通のくらしがしにくい人たちの生活扶助を行うことを目的とした施設で、入所定員は100名。兵庫県が設立した、総合リハビリテーションセンター救護施設「のぞみの家」といい、西区曙町にあります。

◎忘年会開催のいきさつ

「のぞみの家」から依頼があったのは、昨年11月、日頃園芸指導に出かけている、“わ”の会員に恒例の忘年会のイベントを“わ”で引き受けて貰えないかとの打診があったので、早速打ち合わせしてお引き受けすることになったものです。

年末１２月１８日午後２時から施設の２階食堂で開催する事になりました。

◎さて当日ですが、参加した人達は、

のぞみの家側：入居者―１００名

援助者：世話人―１５名　計１１５名

ｸﾞﾙｰﾌﾟ“わ”側：　出演者―５８名

世話人―７名　　計６５名

その他　“わ”西区委員、西区役所・地域福祉課員の方数名でした。

◎我々が用意していった演芸のレパートリーは、日頃から腕を磨いた選りすぐりのものばかりです。プログラムに従い、先ず三味線の独奏、ついで「皆で歌おう」ではリクエスト曲が「みかんの花咲く丘、上を向いて歩こう、宵待草」など６曲、どれも懐かしいよく知られた歌で、みんなで楽しく合唱しました。

“わ”名物の「銭太鼓」は大勢の出演でもあり、にぎやかで綺麗でこの不景気風を吹っ飛ばすような熱演でした。　また「コーラス」も３０名の男女の合唱で、しかも日本の歌もクリスマスソングも、みんながよく知った歌だったため、会場が一つになって楽しく和気藹々と歌いあげました。

◎このように皆さんが喜んでくれるのみますと、本当にやりがいあったなと、心から感じた次第です。（C部会　森　記）

委員会だより

第１９回運営委員会開催

開催月日　平成１０年１１月１７日（火）
出席委員数　　１３名
主要な討議、または報告

１．Ⅱ期生運営委員の討論会の報告

11月13日（金）にⅡ期生運営委員の会合が開かれ、次期“わ”の運営の準備にどう取り組んでゆくかを討論しました。結論として現在ではまだ具体的に報告する段階ではないが、12月10日にⅡ期生の総会が開かれるので、“わ”の次期運営の為の問題を整理した上でよく相談し、出来るだけ早く結論を出すようにしたい。Ⅲ期生の“わ”への勧誘に付いては、Ⅱ期生が主体となって実施することを確認。その為の具体的方策とスケジュールを協議し決めることになりました。

２．部会の統合とネーミングの変更

10月30日の企画委員会で提案された、“わ”の名称変更等について、この運営委員会でつぎのように決定了承されました。

各部会名をつぎのように改めます。

Ａ，Ｂ…生活文化部会
Ｃ　…地域ふれあい部会
Ｄ　…外国人支援交流部会…支援を追加
Ｅ　…くらしの環境調査部会
Ｆ　…情報部会
Ｇ　…福祉部会
　－１．カーボランティア
　－２．各種お手伝い

３．外国人支援交流部会の支援金支出と今後の活動についての報告

Ｄ部会員の努力で、今年当初よりバザー、コーヒー販売その他の活動で得た支援積み立て金が、10万円に達したのを機会に、“アジア福祉教育財団難民事業本部、関西支社”を通じて難民の高校生または就学生５人に、一人あたり２万円づつ支給することになりました。勿論学校の推薦書の下に選考された上、然るべき手続きを経て、平成11年２月頃に“わ”から直接本人に手渡す予定です。

その他Ｄ部会では12月９日（水）に外国人との交流懇親会を開催します。（詳細は本紙の別欄に掲載しました。）

バザーやコーヒー販売などによる支援金獲得の活動は、今後とも続けて行く予定。

４．各部会の活動報告

１）Ａ部会　オリンピアの書道指導に部会員が月２回出向きます。

２）Ｃ部会

①10月24日ハートフル須磨イベントに参加しました。先方は63名、“わ”から３８名が参加。

②12月18日　玉津「のぞみの家」の忘年会のイベントを担当します。

３）Ｆ部会

12月４日カレッジ情報紙に臨時総会の記事を要約して掲載します。

５．その他…　　４件

６．事務局

１）地区委員から申請があれば通信費を支給します。

２）各部会とも、ボランティア活動をしたときは、出来るだけ写真を撮って、事務局へ提出して下さい。
（記録保存、情報発信のため）

第２０回運営委員会及び第３回地区委員会開催

開催日時　平成10年12月4日10:00
出席委員　運営委員　15名
　　地区委員（正、副）　13名

§議事項目

1．地区委員会関係
　1）運営委員、地区委員の自己紹介
　2）地区委員より連絡網内容の報告
　3）質疑応答

2．運営委員会関係
　1）「社会還元のあゆみ」について報告
　2）各部会の報告
　3）今後連携を考慮する施設について（別紙参照）
　4）Ⅲ期生への入会勧誘

◎主な討議内容

上に掲げたような問題について討議が行われましたが、主な問題のみ挙げると次のようなことです。

1．地区委員会
　1）連絡網：各区毎の“わ”組織は、発足してまだ3ヶ月ほどなので、各区とも組織整備はこれからです。連絡網の整備一、二の区を除き終わっています。
　2）質疑応答
　　①活動費：活動参加費は無償の場合“わ”から支払います。（一回500円、先方支給がこれ以下の場合はその差額）。
　　②ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ保険：“わ”として加入します。
　　③各地区のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰへの登録
　　グループ“わ”として登録して貰うが、代表は各地区委員とします。できるだけ各地区で登録する方向になるように望みます。

2．運営委員会
　1）「社会還元のあゆみ」：平成5年から現在までの、カレッジのおもな歩みをまとめる予定です。2月頃発行を目標。
　2）各部会報告
　　①C部会　：12月18日「のぞみの家」の忘年会イベント実施（別頁掲載）
　　②D部会　：12月9日外国人との交流忘年親睦会開催（別頁掲載）
　　③E部会：Ⅱ期生を中心にごみの収集方法の問題を話し合っています。
　　④F部会：今後毎月の運営委員会の決議事項などは掲載してゆきます。
　　⑤G部会：引っ越しボランティアは一段落したが、カーボランティアの需要が多い。各区で協力してくれる人があればお願いしたい。
　　（連絡先：岡　雄一☎861-3549）

3．Ⅲ期生の入会勧誘
　1月からⅢ期生の授業状況を見計らって勧誘をしてゆきます。
　申し込み書は、1，2F事務局に回収箱をおきます。

4．その他
　1）平成10年度学園祭実行委員会より64,700円ご寄付を頂きました。
　2）「愛の輪運動」に“わ”として入会しました。その情報紙にも“わ”が紹介されています。
　3）今年は「国連国際高齢者年」です。“わ”としても今年度何か大きな活動目標に取り組みたいと思います。

味知句作（みちくさ）

日常生活のなかでの社会事象は 80％＝20％の経験則に…？

日常、社会生活のなかではホンネとタテマエとがあって、例えば良いか、悪いか、の事象は経験則によって、ある割合に支配されるといわれる。イタリヤの経済学者のパレートが提唱した経験則がある．かつて企業の現場で品質管理を担当された方は衆知の法則である。悪いものの原因は全体の20％のなかに占められているという。20％を改善することによって80％が改善できるとしたものである。

企業診断士の田中　満氏の言を借りる。「80＝20」の法則、こんな数式は学校では通用しない。しかし現実の社会ではこのありえない数式の型に従っている。基本的に世の中には「良いもの」は誰もが欲しいが誰にも等しく分けあたえられているか？…というと、そうではない。「良いもの」それは例えば、お金・土地・名誉・地位・健康・学歴・美貌などがある。これら「良いもの」の80％は20％以内の少数の人の手に入り、残りの20％を80％以上の多くの人が分けることになる。誰もが等しく分け合うことはない。

また土地に例をとれば、地球上には170余の独立国があり、広大な国土のロシア、カナダ、中国、アメリカ、ブラジル、オーストラリア、インド等々の10余国が地球全体の半分以上を、続く約30カ国が残りの約80％の土地を占有。つまり地球の土地80％以上は約20％の国で占められていることになる。

さて、人間は否（いや）応なしに１歳づつ年をとる。いま15歳の少年も50年後には65歳の高齢者。一夫婦当りの子供の数は1.6 人弱、人口の減少を支える最小限度の2.1 人をはるかに下回り、日本の人口が減少することを意味している。昭和63年に15歳未満の子供の数は人口の20％を初めて切り、平成７年には10.8％。若者の割合は下がる一方、逆に65歳以上の高齢者の割合は昭和50年に20％を超え、昭和60年には24％、そして平成12年には30％を超える？…と予想。社会の高齢化はもはや避けられない。いわゆる「20％を超えると変化が起こる」としている。老人も20％以内のときは「良いもの」とし、「敬老」として大事にされ、人生経験による見識が尊敬されるようになった。

一方、若者の場合は20％を切ると希少価値が生じ、いわゆる「金の卵」的存在となった。

いずれにせよ80＝20の法則は、どう解釈しようと世の中の事象の仕組みであり、20％をこえると様変わりすること、20％以内なら何とかなること、などが基本的考えである。

（Ｆ部会　横田）

編集後記

◆本誌から表紙記事には、できるだけ時の話題に関するものを掲載していきたいと考えています。今回は「福祉」に関するものを掲載しました。◆前回にも申しあげましたが、地域において“わ”の活動にとりいれたらよいと思われる「新しい活動分野」があれば“わ”事務局にお寄せください。◆小寒に入ってから連日の厳しい寒さ、震災５年目を迎え、さらなる復興を願うものであります。◆１月もなかば、大寒。寒さも本番、ますますご健康にご留意ください。◆ご自由なご投稿をお待ちしています。